

そだちのねっこ

～乳幼児期の遊びより～



【「これも作戦やもんな! 勝っても負けても楽しいな!」～『やってみたい!』が学びの芽～】

2月12日、5歳児の子どもたちが遊ぶ様子を見学してきました。



友だちと一緒に絵描きやけん玉を楽しんでいました。私の姿を見つけると、「〇〇ちゃんは絵描くのが得意やんねん、ほら上手やろ!」「失敗してもいいねん。一日中練習したらできるようになるねん!」など、自分のことのように友だちについて紹介をしてくれました。すると、「こっちも私が描いたやつやねん」「こうやって足を動かしてリズムを取るとやりやすくなるねん」と紹介された子どもたちも嬉しそうに追加で話をしてくれました。

その横で、「ゴミモンスターの話もきいてよ!」「仲間が少ないから力が弱くなる」とゴミモンスターに扮した A 児が訴えていました。「じゃあ縄跳び対決しよや!」とエコレンジャーに扮した B 児の声で、周りにいた子どもたちも「よっしゃ〜!」「パワーアップや!」とお茶を飲んだり、靴下を脱いだりして対決の準備をしていました。「負けへんで〜」「対決だ〜」と気合い十分に、ゴミモンスター対エコレンジャーの縄跳び対決が始まりました。引っかけからず跳び続けられた方が勝ちというルールに対して、エコレンジャーチームは“前に進んでぶつける!”という作戦を考えていました。

ゴミ:「もうやめてよ!あたるやんか〜」

エコ:「だって、これも作戦やねんもんな〜」「そうそう!」

ゴミ:「え〜。そんなんあり?」

「ちょっと、こっちも作戦考えさせてよ〜」

エコ:「どうぞどうぞ!」

ゴミモンスターチームは、跳びながら後ろへ下がるという作戦を立てていました。しかし、次に控えている友だちに当たってしまうという状況がありました。結局、“前に進んで強気で跳ぼう!”と作戦変更することにしていました。どちらのチームとも負けても勝っても笑っていたり、縄跳びがあまり得意ではない子どもも「次は勝つぞ〜」と喜んでいたりして一緒に楽しんでいました。

子どもたちが好きな遊びの中で、興味・関心をもった遊びに自発的に加わり、楽しさを共感、対話を通して思いを伝え、相談、試行錯誤したり、折り合いをつけたりしながら、遊びが盛り上がっていました。子どもたちの遊ぶ姿から、『主体的・対話的で深い学び』が自然と繰り返されていると思いました。

また、「僕は今からパトロールに行ってくるから〜」と白バイに乗って、出発したと同時に、「ちょっと待って!」と横断歩道を安全に見守る警察官も現れました。「悪い人がいないか、見てきますね」と廊下を見回りに出かけていきました。何も知らないであろう私に対して、遊びに必要なものやルールの説明をしてくれました。自信満々の表情から、自分たちで考えた遊びであることもよくわかりました。

しばらくして、遊戯室に移動しました。21日の生活発表会の予行ということでした。決められた物語の中で演じ、決められたセリフを覚えて言うものではなく、日ごろから楽しんで遊んでいる好きな遊びの延長線上の生活発表会であ



ることが、よくわかりました。



こども園での生活や遊びが途切れることなく、楽しい気持ちをつなげていきたいという、担任の先生の愛を感じることができました。たくさんの観客を前に委縮してしまう子どももいる中、そっと教えてあげたり、手を引いてあげたりするさりげない優しい姿も見られました。また、自分の役割を一生懸命に果たそうとしたり、大きな声で喋ろうと意識したりする子どももいました。細やかな保育者のかかわりがあり、子どもたち一人ひとりが自分らしさ輝き、生き生きとした



姿となっているのだと感じました。

後1か月半すると、小学校1年生になる子どもたちです。こども園という集団の中で、思い通りにいかず悔しい思いやトラブルもたくさん経験したことと思います。その都度、寄り添ってくれる仲間からの励まして乗り越えてきたのではないのでしょうか。また、自分のやりたい遊びを存分にでき、認められることで自信を積み重ねて、堂々とした姿になっていったのだと思いました。

幼児教育での遊びを通して育んだ力(学びの芽)を、小学校でも笑顔を絶やすことなく、学びの花として咲かせてほしいと思いました。

♪シンキングタイム♪

上記のエピソードから、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」とリンクさせてお読みいただけましたか?保育者は、遊びの中で、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を念頭に置いて、発達に必要な体験が得られるような状況をつくったり、必要な援助を行ったりしています。これこそが、『遊びは学び 学びは遊び “やってみたいが学びの芽”』です。

小学校の先生と就学前施設の保育者で、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに子どもの姿を共有し、語り合うことで、育ちをつなげていきたいです。

<幼児期の終わりまでに育ってほしい姿>

- ①健康な心と体
- ②自立心
- ③協同性
- ④道徳性・規範意識の芽生え
- ⑤社会生活との関わり
- ⑥思考力の芽生え
- ⑦自然との関わり・生命尊重
- ⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
- ⑨言葉による伝え合い
- ⑩豊かな感性と表現